地域の見守り活動

YC土呂（ところ） 所長　今井松男

地域の小学生を交通事故から守る 地域見守り活動

◉実施期間

2008年3月～

◉実施地域

JR土呂駅東口交差点（さいたま市北区）

◉活動概要

さいたま市北区のYC土呂所長の今井松男さんは、2008年3月から毎日、区域内の小学生の登校時に、交通安全指導員として通学路の安全確保を行っている。

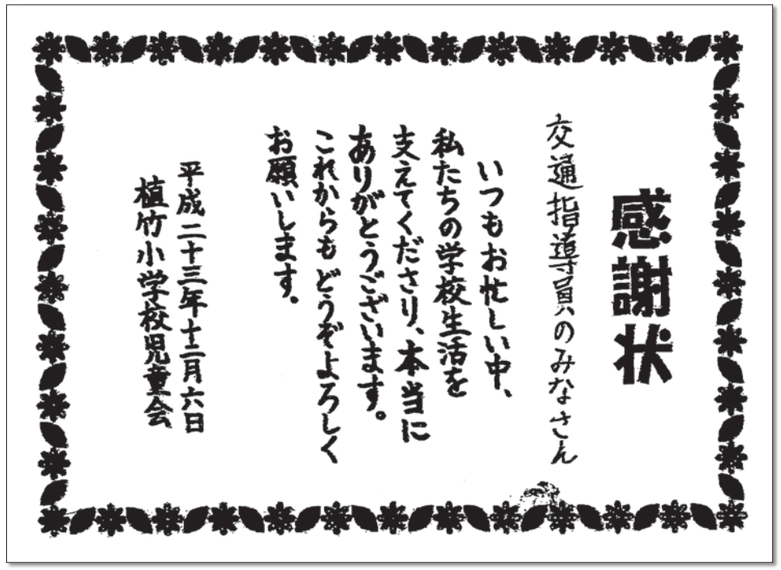
毎週月曜日から金曜日の午前7時から8時の時間帯に、JR土呂駅東口交差点付近で行っているこの見守り活動は他団体にも広がり、現在では下校時に自治会やPTAでも行うようになっている。

地元小学生から多数の感謝状や手紙が届けられている。

＊

今井松男（いまい・まつお）

◎寄せられた感謝状や手紙

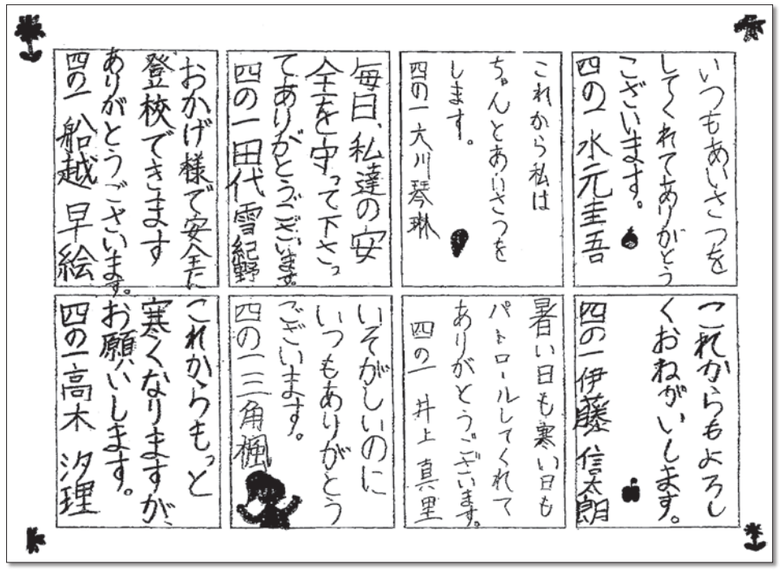


感謝状

交通指導員のみなさん

いつもお忙しい中、私たちの学校生活を支えてくださり、本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いします。

平成二十三年十二月六日
植竹小学校児童会



いつもあいさつをしてくれてありがとうございます。
四の一 水元圭吾

これから私はちゃんとあいさつをします。
四の一 大川琴琳

毎日、私達の安全を守って下さってありがとうございます。
四の一 田代雪紀野

おかげ様で安全に登校できますありがとうございます。
四の一 船越早絵

これからもよろしくおねがいします。
四の一 伊藤信太朗

暑い日も寒い日もパトロールしてくれてありがとうございます。
四の一 井上真里

いそがしいのにいつもありがとうございます。
四の一 三角楓

これからもっと寒くなりますがお願いします。
四の一 高木汐理

うえたけ　No.282　2012.3.19

もくじ
2 シリーズ第3回
3 卒業記念
4 5 みんなで守ろう うえたけ 防犯・防災特集
6 7 行事アラカルト
8 たんぽぽ 他

さいたま市植竹小PTA広報誌「うえたけ」
2012年3月19日付（No.282）

みんなで守ろう うえたけ
防犯・防災特集

昨年は東日本大震災が起こり、未曾有の危機に直面した大変な年でした。教訓として学んだものは、学校側と保護者とのつながり、「絆」の大切さです。
この「絆」を深めていくために、改めて互いの連携を再確認していきたいと思います。

絆 ～キズナ～

防犯ボランティア
現在約40人で活動しています。一斉下校の前に会議を開き情報交換をしています。主な活動は登下校時の付き添い・見守り等で、自主的に活動できる方が実施しています。震災直後は、子供達の下校に付き添い安全を見守ってくれました。

子ども110番の家
地域の方々にご協力いただき、「子ども110番の家」を設置しています。子ども110番の家と書かれたプレートが目印です。

おはよう通学
保護者が定期的に子ども達を見守っています。

もう一度自分の通学路を確認してみよう！

交通安全指導委員さん
毎朝、子供達の登校を見守って頂いている今井さん。

避難訓練
各学期ごとに年3回実施しています。

教頭先生に聞きました

震度5弱
3.11地震発生当日は、下校時の危険性を考え、先生方引率のもと校内にいた児童は一斉下校となりましたが、保護者が帰宅困難になる等自宅で不安な時間を過ごした児童もいました。
現在、学校側の対応（全市対応）としては、学校管理下で震度5弱以上の地震が発生した場合、植竹小学校を避難所とし保護者が引き取りに来るまで学校待機とすることにしました。

踏切
地震発生時や事故等で踏切が上がらず、児童が登下校時に立ち往生することがあります。学校側で把握次第教員が対応していますが、全て把握できない現状もあります。現在も踏切が上がらない時には、連絡をいただいていますが、お気づきの方は学校に連絡をお願いします。

放射能
平成23年11月下旬、校内でさいたま市による放射線量の測定が行われました。学校側でも区役所から検査機器をレンタルし、8・11・12月の計3回線量測定を実施しましたが、いずれも低減措置が必要な目安を下回っていました。

警備員さん
学校敷地内の安全を見守って頂いている高橋さん。

避難時の4カ条 おかしも
おさない かけない しゃべらない もどらない

おはようイカのおすし

5 うえたけ No.282　　うえたけ No.282 4

新潟県における地域の見守り活動

新潟日報会

地元自治体、県警などと連携した地域の見守り活動を展開

◉実施期間

2008年8月～

◉実施地域

新潟県内全域

◉活動概要

新潟日報会は、2008年8月から、新潟県、新潟県民生委員児童委員協議会との三者で「新潟県における地域の見守り活動」を実施している。

同会はこれまでも販売店憲章の一環として、新潟県で生活する誰もが安全、安心に暮らすことができる地域づくりに取り組んでおり、04年7月には新潟県警と「安全で安心なまちづくりのための覚書」を締結し、警察と連携した見守り活動を展開している。今回の三者締結はこれを発展させたものである。

また、各販売店を「こども110番の店」として登録、地域の安心スポットとしての充実を図っている。12年には活動が評価され、警察署から感謝状が贈られている。

＊

新潟日報会＝NIC新潟日報販売店会販売店グループ。新潟日報214販売所で組織。阿部伸（あべ・しん）会長。

■NIC憲章（左）と新潟市における地域の見守り活動に関する協定書（右）

N I C 憲 章

（1995年5月制定）

私たちNICは、ふるさと新潟の自然と文化を愛し、そこに暮らす人々が健康で快適、夢と希望をもった生活をおくれるよう、新潟日報をはじめとするさまざまな情報を提供しています。その社会的役割を自らの企業活動の中に見つめ、全てのNICが連携して、より豊かな郷土の実現に貢献するため、この憲章を定めます。

1. お客様を第一に考え、高い満足度の提供を追求します。
2. 地域社会との交流を大切にし、その視点に立った行動を心掛けます。
3. 新聞販売の社会的使命を自覚し、誇りをもって業務に励みます。
4. 宅配網の付加価値を高め、地域の情報センターを目指します。

地域社会との交流を大切にし、その視点に立った行動を心掛けます。

現代社会は豊かさを享受する中で、共働き、核家族化、少子化、高齢化といった現象を生み、以前のような近所づきあいや地域内でのふれあい（コミュニケーション）を極めて希薄にしています。一方、私たちNICは地域に深く根を下ろし、地域社会との交流に支えられて営業を行ってきました。

その経緯を十分自覚し、利益追求にとどまらず、地域社会の発展と文化の向上に貢献できるような、信頼される店づくりに前向きに取り組まなければなりません。

＜指標＞

1. 新潟県人としての目を養い、地元密着型企業を目指す。
2. 地域社会と積極的に交流する。
3. 地域社会から信頼される店づくりをする。
4. 地域社会の生活や文化の向上に役立つ情報を提供する。
5. 地域社会を住み良くするための活動に積極的に参加し、協力する。

（「NIC憲章」から抜粋）

新潟市における地域の見守り活動に関する協定書

NIC新潟日報販売店会（以下「甲」という。）、新潟市民生委員児童委員協議会連合会（以下「乙」という。）、新潟市（以下「丙」という。）及び社会福祉法人新潟市社会福祉協議会（以下「丁」という。）は、地域で支え合うしくみづくりに関して相互に協力するため、次のとおり、新潟市における地域の見守り活動に関する協定（以下「協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 協定は、超高齢・少子社会に対応した助け合い都市を目指して、地域の中で支援が必要と思われる一人暮らし高齢者をはじめ、障がい者や子どもの安全等の見守り活動に対して甲、乙、丙及び丁が積極的に協力し、地域福祉の向上に寄与することを目的とする。

（協力内容）

第2条 甲は、市内のNIC新潟日報販売店及び同従業員に対して協定の趣旨を周知し、日常の業務の範囲において協力可能な体制の整備を行うものとする。

2 乙は、地区民生委員児童委員協議会及び民生委員・児童委員に対して協定の趣旨を周知し、円滑な連絡通報体制の整備を行うものとする。

3 丙は、各区役所及び関係機関に対して協定の趣旨を周知し、市内における取り組みの円滑な実現を支援するものとする。

4 丁は、乙事務局としての役割の他、各区社会福祉協議会及び関係機関に対して協定の趣旨を周知し、市内における取り組みの円滑な実現を支援するものとする。

5 前四項における協力の詳細内容については、「新聞販売店との連携による地域の見守り活動に関する手引＜新潟市＞」（以下「手引」という。）に基づき行うものとする。なお、手引の内容は各地区の特性・状況等を勘案し、必要に応じて各地区関係者間の協議で変更することができる。

（個人情報の保護）

第3条 甲、乙、丙及び丁は、協定実施にあたり、個人情報の保護に配慮するとともに、活動上知り得た情報を外部に漏らしてはならない。

（相互連携）

第4条 甲、乙、丙及び丁は、協定に定める事項の円滑な推進を図るため、各種情報交換を行う等、相互連携の強化に努めるものとする。

…丙及び丁で協…

…、有効期間…

…の意思表示…

…のとし、以…

…名押印のうえ、…

丁 新潟市中央区八千代1丁目3番1号
社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会
会 長 関 昭一

新潟コミュニティFM10局 …る協定締結

コミュニティーFM

災害に備え連携さらに

10局と本社、日報会が協定

中越地震から23日で6年となるのを前に、新潟日報社と、本紙販売店でつくる新潟日報会、県内のコミュニティーFM10局は20日、災害時などに協力することを定めた「安心安全に関する協定」を締結した。

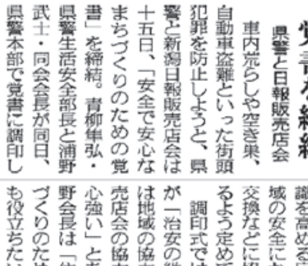
災害時などの協力を定めた協定に署名し握手する高橋東二・日報会会長（左）と新潟日報社の高橋道映社長（中央）、FMながおかの脇屋雄介社長＝20日、長岡市千歳1

協定は、中越・中越沖地震や7・13水害などで、FM局や本紙が被災者への情報発信に貢献してきたことを踏まえ、さらに連携を深める目的。災害などの緊急時に「相互協力し地域への情報提供を行う」ほか、日常的な情報交換などを通して連携体制を整えることを定めた。

長岡市の新潟日報長岡支社での締結式には、高橋道映・新潟日報社社長と高橋東二・日報会会長、10局を代表しFMながおかの脇屋雄介社長が署名を交わした。

高橋社長は「地域に根差したFMの皆さんと思いは同じ。協力して地域の安全を確保したい」と述べた。

県内のコミュニティFM10局、新潟日報会による「安心安全に関する協定」締結式の様子
新潟日報　2010年10月21日付朝刊



犯罪防止へ覚書を締結

県警と日報販売店会

車内荒らしや空き巣、自動車盗難といった街頭犯罪を防止しようと、県警と新潟日報販売店会は十五日、「安全で安心なまちづくりのための覚書」を締結。青柳隼弘・県警生活安全部長と浦野武士・同会会長が同日、県警本部で覚書に調印した＝写真＝。

同会は二百二十五店舗で構成され、従業員は約六千二百人。覚書では、同会側が新聞配達中に事件・事故を目撃した際は早期に警察に連絡したり、防犯意識を高める広報活動、地域の安全にかかわる情報交換などに協力したりするよう定めている。

調印式では、青柳部長が「治安の維持・回復には地域の協力が大事。販売店会の協力が得られて心強い」とあいさつ。浦野会長は「住みよいまちづくりのために、少しでも役立ちたい」と抱負を述べた。

新潟県警、新潟日報会による「安全で安心なまちづくりのための覚書」調印式の様子　新潟日報　2004年7月16日付朝刊

NIC販売店会

孤独死防止へ 地域を見守り

県などと協定締結

安全な地域づくりに向け、県とNIC新潟日報販売店会、県民生委員児童委員協議会の三者は二十五日、「地域の見守り活動に関する協定書」に調印した。NICは新聞配達を通し、高齢者や障害者の生活の異変に気付いた際、民生委員に連絡する。

協定は、高齢者の孤独死などを防ぐ狙い。県が「見守り活動」で民間団体と協定を結ぶのは、昨年の県宅地建物取引業協会に続き二例目。

NICは県内二百一十二店舗、約六千人の従業員がいる。配達先の新聞や郵便物がたまっていたり、取り込まれていない洗濯物があったりした場合、地域の民生委員・児童委員に報告。民生委員が状況を確認し、関係機関とともに支援を行う。

泉田裕彦知事、同協議会の田中好一会長と協定書を交わした同販売店会の高橋東二会長は「民生委員と協力し、地域の安心な生活の確保に努めたい」と連携を強調した。

田中会長も「共同して地域を見守りたい」と応じ、知事は「要援護者名簿をNICに提供し、活動を広げてはどうか」と提案した。

写真＝地域の見守り活動について、県などと協定を結ぶNIC新潟日報販売店会の高橋東二会長㊧（25日、県庁）

新潟県、県民生委員児童委員協議会、新潟日報会の三者による「地域の見守り活動に関する協定書」調印式の様子
新潟日報　2008年8月26日付朝刊

高齢者宅 たまったままの新聞…

異変察知 救助に貢献

NIC従業員 新発田署が感謝状

新聞配達中に高齢者宅の異変に気付き、救助に貢献したとして、新発田署は14日、新発田市の新潟日報販売店（NIC）新発田中央営業所の従業員松田久子さん(62)に感謝状を贈った。

岡本鉄之助署長（左）から感謝状を受け取る松田久子さん＝14日、新発田署

松田さんは4月30日早朝、一人暮らしの80代女性宅を新聞配達で訪れた際、部屋の電気がついているのに、数日分の新聞がたまっていることに異変を感じた。鍵はかかっておらず、呼び掛けへの返事もなかった。

このため、新発田署に通報。駆け付けた署員が衰弱した女性を発見。病院に搬送され、命に別条はなかった。松田さんは前日も集金に訪れていたが、その際も同じ状態だったため、気に掛けていたという。

NICは新聞配達中に地域を見守る「NICながらパトロール隊（愛称パトニック）」の活動を推進。認知症の高齢者保護などの実績がある。

同署で岡本鉄之助署長から感謝状を受け取った松田さんは「（女性が）無事で良かった。これからは熱中症が心配。一人暮らしのお宅に注意していきたい」と話した。岡本署長は「スムーズに通報いただきありがたい」と述べた。

見守り活動で表彰されたNICスタッフ
新潟日報　2012年5月15日付朝刊

■年別事例発生件数（2012年5月14日現在）（単位：件）

	高齢世帯	路上	火災	防犯	小計	生存	死亡
H16年	8	0	0	0	8	7	1
H17年	5	1	1	0	7	3	4
H18年	7	2	0	1	10	5	5
H19年	3	9	1	0	13	10	3
H20年	3	5	0	0	8	6	2
H21年	8	12	0	2	22	19	3
H22年	6	5	1	1	13	7	6
H23年	7	6	1	0	14	9	5
H24年	13	9	3	0	25	21	4
小計	60	49	7	4	120	87	33

※高齢世帯…一人暮らし高齢者宅が大半。
　新聞がたまって発見するケースが多数
※路上…高齢者のはいかい、怪我人の発見等
※火災…火災（ぼや含む）の発見、通報等
※防犯…空き巣や不審者の発見、通報等

■パトNIC＆ながらパトロール＆セーフティスタッフ実践報告書

本社・営業部御中

パトNIC&ながらパトロール
&セーフティスタッフ実践報告書

NIC石山西　スタッフ氏名　山崎　いつ子

日時	22年 11月 12日 午前 3時 45分頃 朝刊作業中。
対象	相手住所〔詳しくなくて可〕 中野山4丁目 対象世帯状況〔できれば詳しく〕 日報朝刊固定読者
異変発見ポイント	どんなことで、異変を感知しましたか？〔できれば詳しく〕 朝刊購読者のアンジェパッセ様（レストラン・自宅は別）にて新聞（袋入れ）を裏口ドアにかけた際にドアが少し開き不審に思う。良く確認するとドアノブ上のガラスが人の手が入るくらいに割れている事に気がつき空き巣が入ったと判断する。
通報先	※民生委員、警察など具体的に記入ください。 アンジェパッセ様に電話をするが自宅に転送されず、警察へ通報。合わせて、大家の自宅（現場隣接）に行き事情説明する。
結果報告	発見後、スタッフは一度会社に戻り代行所員（男性）共に被害にあった現場へ。直ちに警察に通報など処理を行う。 16時20分に被害に遭われたお店のオーナー夫妻が当店に御礼のため来店された。お話を聞くとレジなど物色されたようだが現金などの盗難は無かったと事。発見したスタッフに大変感謝されていた。御礼の来店時には不在だったスタッフは夕刊終了後、被害に遭ったお店に再度訪問する。 11/18 新潟南警察署より早期発見により、指紋採取、足跡などの証拠が残り犯人の手がかりに繋がったとの事で御礼と謝礼（お菓子）を頂く。
適用	

※ これは、プライバシーの問題となる使い方はいたしません。
※ 日報会での事例共有と各種関連機関と実際の事例対応についての相談などの場合に利用するものです。

本社読者ふれあい室・地域貢献委員会事務局 行き　FAX025-378-9556

パトNIC&ながらパトロール
実践報告書

NIC　長岡北　スタッフ氏名　安井日美子さん

23年4月8日報告

日時	22年12月29日 午前11時頃 集金作業中
対象	相手住所〔記入可能な範囲で結構です〕 長岡市北園町 対象世帯状況〔できるだけ詳しくご記入ください〕 10世帯が居住する民間アパート 火元は2階で体に障害をもった親子が居住する。
異変発見ポイント	どんなことで、異変を感知しましたか？〔できるだけ詳しくご記入ください〕 アパート1階へ集金に伺っていたところ、2階から火災警報器の音が鳴り響く。 携帯電話で119番に通報しながら「アパート火災です、私にできることはありますか？」と尋ねる。消防署員は「アパート全部のドアをノックし、火災であることを知らせてください」と指示があった。 火元の親子を救助し終わると、全部の部屋の住人と、近所の方々にも知らせ避難させた。
通報先	※NIC所長、自治会長、民生委員、警察など具体的に記入ください。
結果	火元の部屋を含み3部屋が焼けたが、早期避難のおかげで一人のけが人を出すことがなかった。 後に所長・社員が近火見舞いを配りに行ったら、付近住民から大変に褒められた。
その他特記事項	火災警報器を販売していたため、警報音を認識しており早い行動に移ることができた

※ 個人情報保護法やプライバシーの問題となる使い方はいたしません。
※ 本社・日報会での事例共有や各種関連機関との協力・対応について、実例に基づいて相談する場合等に利用するものです。

本社読者ふれあい室・地域貢献委員会事務局 行き　FAX025-378-9556

パトNIC&ながらパトロール
実践報告書

NIC黒埼　スタッフ氏名　高山絹枝　24年1月27日

日時	24年1月27日 午前 3時30分頃 （朝刊）・夕刊・集金・販促・その他（　）作業中
対象	相手住所〔記入可能な範囲で結構です〕 西区大野町3616番地 新潟市西消防署黒埼出張所の前で 対象世帯状況〔できるだけ詳しくご記入ください〕
異変発見ポイント	どんなことで、異変を感知しましたか？〔できるだけ詳しくご記入ください〕 パジャマ姿の女性と老婆を発見した。おかしいなと思い、声をかけると「タクシーを呼んだが全然来ない」という返答だった。 タクシーはすぐに来るのであろうと思い配達作業を続けた。20部ほど配達して先ほどの場所に戻ると、まだ二人はタクシーを待っていた。あまりにも寒そうでパジャマ姿の女性の健康に不都合が出ると思い「どちらまで？」と聞くと「鳥原大明です」と言った。黒埼エリア内なので車に乗せて自宅まで送り届けた。
通報先	※NIC所長、自治会長、民生委員、警察など具体的に記入ください。 所長へ夕刊時報告あり
結果	パジャマ姿の女性は認知症を患っている。家族が目を離した隙に家を飛び出してしまった。それを母親が追いかけていった。とのことでした。
その他特記事項	

※ 個人情報保護法やプライバシーの問題となる使い方はいたしません。
※ 本社・日報会での事例共有や各種関連機関との協力・対応について、実例に基づいて相談する場合等に利用するものです。

ボランティア情報誌の配布協力

信毎販売センター　代表取締役社長　小松盛喜

地域の情報誌を無償で配布する 長期間にわたる貢献活動

◉実施期間

1989年1月～

◉実施地域

長野市内

◉活動概要

長野市の信毎販売センター代表取締役社長の小松盛喜さんは、1989年1月から長野市ボランティアセンター発行の情報誌「ボランティアかわらばん」を、毎月1回350から400件の指定先に無償で配達している。

活動は会社創立20周年の記念事業として、社員によるボランティア活動実施委員会が、長野市社会福祉協議会に相談して具体化したことから始まった。

社会福祉協議会から企業の社会貢献が一般的でなかった時代に、ボランティアで配達の申し出があり、それが長年続いていることに感謝の声が寄せられている。

＊

小松盛喜（こまつ・もりよし）

■配達中の小松さん（写真右）と配達する情報誌「ボランティアかわらばん」

ボランティア情報を配達

長野・信毎センター　20周年機に無償で

ボランティア情報配達します―。長野市に本社のある新聞販売店が同市内のボランティア情報紙の「ボランティアかわらばん」の配達をこのほど無償で始めた。配達するのは信毎販売センター。ボランティアグループは「郵送料が減った分、だいぶ部数を増やせた」と民間企業の積極的なボランティア参加を喜んでいる。

信毎販売センターは、今年の十二月に創立二十周年となることから昨年、「二十周年を単なる通過点ではなく、何か地域のための手伝いができないか」と、社内にボランティア委員会を発足させた。委員会の事務局員の阪田由紀さん(三七)が「新聞配達を中心とした会社なので、その特徴を生かしたボランティアができたら―」と、ボランティアセンターに相談してかわらばん配達を紹介してもらった。

かわらばんは、月一回、市内のボランティアグループ「ボランティアかわらばん編集委員会」（三宅みき会長）が各種講座や催し物の情報、ボランティアの現場の声などを集め、年間購読料三百円で発行しているB5判・八ページの情報紙。今まで戸別に郵送していたが、一月から、同センターの各営業所の職員が受け持ち区域内の約四百世帯に仕事の合間を見て配達している。

「一部、二部といった少ない部数配達がほとんどで、多くても二十部止まり。頑張ってくれてます」と阪田さん。

三宅さんは「郵送料が半分ほどになって大助かり。余ったお金で千部ほど余分に発行して、銀行や美容院などにもかわらばんを置けるようになりました」と喜んでいる。

信濃毎日新聞　1989年3月5日付

「かわらばん」　私たちが届けています！

ボランティアかわらばん　2011年（平成23年）2月号　掲載

からだにもいい活動？！　永野誠さん

きっかけは、いつも利用していた施設で手に取ったかわらばんでした。「配達者募集！」の記事を見て「自分でも出来るかな～？」と思い、4、5年前にまずは家の近くのコンビニに届けたのが始まりでした。現在は6か所の施設へ仕事帰りに配達しています。配達を続けている理由をお聞きすると、「いろいろな場所へ届けることで、定期的に外に出て動き回れる。こうして体を動かせることが、自分の体にとっても良いのかな？と思っている。一度始めたことだから、特に出来ない理由がない限りは続けたいと思います。」と笑顔で話してくれました。

読んでもらうことが喜びです　宮尾暁俊さん

かわらばん配達を昨夏から毎月継続している宮尾さん。きっかけは、ボランティアセンターに来ている時に、センターの方が配達しに行くということを聞いたこと。それなら自宅へ帰るついでにできるし、元々、車の運転をするのが好きだったので全く苦にならないということで始めました。こんなボランティアもあるのだなという印象だったそうです。

気になるのは、毎月入れ替えに行くと、全部無くなっている所と殆ど手つかずの状態で残っている所があること。毎月かわらばんが全部無くなっていることが宮尾さんの願いです。

（取材：茶嶋　宏明）

万難を排して配達準備　岩崎俶明さん

かわらばんと言えば「このひと」の顔が浮かびます。印刷会社から最新号が届くと、お仲間のボランティアさんとともに5千部近くを配達先ごとに手際よく仕分けしていきます。

かわらばんとの出会いは17年前の67歳の時。編集委員に加わったことが退職後のボランティア活動のきっかけとなったそうです。「取材や編集の苦労を知っているだけに、出来たものを少しでも早く読者の方に届けたい」。毎月、段取りに余念がありません。自宅近くの喫茶店に配達した時、コーヒーを飲むのを楽しみにしています。

活動を続けて22年！　㈱信毎販売センター

昭和63年の夏、創業20周年を迎えた信毎販売センターでは、『地域があってこその企業、つながりを大切にしたい』と、一過性ではない、地域のためになるお手伝いをしようと「ボランティア活動実施委員会」が発足しました。新聞を各戸に配るという配達ネットワークの強みを活かして何かできないだろうか・・・と考え、①ふくし長野の配布②ボランティアかわらばんの配布③ロータスクーポンの収集という三本柱で進めることになりました。市内営業所約70名の社員さんによって、手配りで412カ所にかわらばんが届けられることになったのです。「企業の社会福祉活動は当時としては大変珍しい事だった」と、部長の髙木利弘さん。当時の様子がボランティアかわらばんの№75号（1989年1月1日発行）に『強力助っ人あらわれる！』と記載されていました。

また、「この強力な助っ人の皆さんのおかげで郵送料が減り、増刷が可能になりました。銀行や商店など、それまで届ける事の出来なかったところへも新しく発送することが可能になり、大変嬉しいことです」と、かわらばん編集委員会から喜びの声が届いたことも、信毎販売センターボランティア活動実施委員会の記録に残されていました。

あれから22年、今でも変わらず続けられているこの活動。高田営業所長の峯村雅人さんは、『自分たちにとっては、当たり前の活動になっています。毎月届けている方から、今月はまだ届かないけれど、いつ届くのかしら？　と、問合せの電話をいただいたこともありました。楽しみに待っている人がいることで、役にたっているんだなぁと思いました。』と、お話してくださいました。

この活動は『信毎ふれあい一声運動（＊）』につながっています。新聞の配達中に火事やガス漏れを発見して事なきを得たことや、徘徊するお年寄りを保護することもあり、地域を見守る人として、今後も期待されます。

峯村さんの「できる事をやっているだけ、ささいな事ですよ。」が実は、まちの安心を作りだす活動になっていたのです。

＊　信毎ふれあい一声運動
数年前より長野県下の信濃毎日新聞の販売店で行われている「信毎ふれあい一声運動」は、県内全域に広がる新聞配達のネットワークを生かし、高齢者世帯などで、緊急を要する病人やけが人などの早期発見をめざす地域貢献活動です。新聞が何日もたまっているなど、普段と様子が違ったら、最寄りの役所窓口などに連絡。病人やけが人の早期発見に努めます。新聞といっしょに安心もお届けする活動です。

かわらばん広めたい　平井良文さん

配達するきっかけは、シルバー人材センターからの勤務先としてふれあい福祉センターの受付を始めた時、かわらばんを読んだこと。もっといろいろな人に「ボランティアセンターはこういうところと知らせたり、ボランティアをしたい方との橋渡しができれば」との思いで始めました。配達先は、以前勤務していた金融関係機関や、自宅が農家であることを活かして、農協の支所へも。時には「今回はこんな内容です！」と一言添えて届けています。「自分の体が動く間は、届け先で話もできるし、始めたことはもう少しやってみよう」と、明るい声でお話しされました。

ボランティアには物語がある　宮下克彦さん

きっかけは9年前。仕事が休みの日や夜にできるボランティアを探して、ボランティアセンターを訪れました。実は、宮下さん自身障がいをもっています。お父さんも障がいがあり、ボランティアに興味をもったのだそうです。

今は、主に長野市内のローソン各支店にかわらばんを配っています。仕事の行き帰りなどに気軽にできるので、続けていられるとのことです。そのほかにも仕事の顧客からの寄付をボラセンにつないでくれていて、取材の日も子ども用の椅子を持ってきてくれました。物品を持って施設に届けに行き、施設を見学させてもらうことも楽しみの一つなんだとか。仕事にも活かせるし、自分が社会を知ることにつながると思っているとのこと。

「ボランティアをしている人には、始めた時、やっている中での感動など、必ず物語があると思うよ。かわらばんで載せたら？」と提案してくれました。

無理なくできること　小林千春さん

自宅近隣を中心に5か所の配達を引き受ける小林さん。ご自分の子どもが小さい頃からいきつけの小児科で多くの子どもたちの姿を見て、当たり前と思っていた体の健康がありがたいと思うようになりました。元気な体を活かし、人の役に立ち、視野を広げたいとボランティアセンターを訪ねました。

「配達の仕事は、自由な時間にできて負担にならず、無理をしなくていいので続けられる」と肩肘を張らないスタイルがとても好感が持てます。そして「普段家にいて社会との接点が少ない自分ですが、ボランティアを通して、周りとつながっていると感じています」と小林さんは笑顔になりました。

（取材：武田　厚子）

ボランティアはかわらばんとともに　酒井めぐ美さん

「いつ頃からかしら…？　特に覚えがないのよね・・・」

28年前から点訳のボランティア活動を続けている酒井めぐ美さんは、かわらばんを点訳したのがきっかけでかわらばんを知りました。編集委員のみなさんが一生懸命作っている姿を見て、ボランティアの事を多くの人に知ってほしいという思いになりました。自宅のご近所さん10件と知り合いの病院に配達。「届けた時にありがとうと言われると嬉しいし、ボランティアのことを知るにはかわらばんが一番だから。」と、ボランティアへの熱い気持ちを感じました。

小さな活動も、多くの人が関わることで大きな活動へ変化する・・・親子二世代にわたってかわらばんを届ける人、20年以上配っている人、最近はじめられた人、その昔やっていた人・・・など、長い年月の中で多くの人が関わってきた「かわらばん」は、一人ひとりのボランティアの力の結集です。33年の重みを感じつつ、これからも皆さんの気持ちを大切にしていきたいですね。今日も元気に「こんにちは　かわらばんです！」と、誰かの所に届いていることでしょう。

[3]ボランティアかわらばん No.340

「ボランティアかわらばん」2011年2月号（No.340）

小学校へのAEDの寄贈と「命の大切さを伝える授業」の実施

藤枝江﨑新聞店 代表　江﨑晴城

AEDの寄贈や講習会で地域の子どもたちに命の大切さを伝える取り組み

◉実施期間

2008年4月〜

◉実施地域

静岡県藤枝市

◉活動概要

静岡県藤枝市の藤枝江﨑新聞店代表の江﨑晴城さんは、2008年4月から藤枝市内の小学校全15校にAED（自動体外式除細動器）を寄贈している。

活動は創業70周年を記念して、地域の子どもたちに「命の大切さ」を伝えるために始め、08年6月には全従業員が普通救命士の資格を取得している。

寄贈後は、新聞社や消防本部の協力のもと、学校単位で「命の大切さを伝える教育講演会」と「AED講習会」を毎年実施しており、11年度には小・中学校16校で実施し、2,000人を超える市民が参加している。この取り組みに対して、藤枝市PTA連絡協議会から「これからは積極的に地域活動に参加したい」との声が多く寄せられている。

＊

江﨑晴城（えざき・はるき）

■藤枝市PTA連絡協議会からの推薦状

2012年4月15日

日本新聞協会　御中

＜地域貢献活動　推薦状＞

藤枝市PTA連絡協議会
会長　稲葉史博
藤枝市青木3-3-17
090－8470－9775

【地元の新聞販売店が各小中学校で展開する「命の大切さを伝える授業」】

2008年4月に藤枝江﨑新聞店様に藤枝市内すべての小学校15校にAEDを寄贈していただきました。
その後、授業の一環として学校単位で「命の大切さを伝える講演会」と「AED講習会」を毎年実施していただいています。
2011年度には年間を通じて市内6割に当たる小中学校16校で実施していただき、参加人数は2000名を超えました。
私たち保護者はもちろんのこと、先生方にも好評で、生徒たちの感想文から「とても勉強になりました。」「これからは積極的に地域活動に参加したい。」等の声が多く聞かれました。
藤枝江﨑新聞店様では2012年度はこの活動を学校だけではなく、自治会にも広げていくようです。
このような取組みは他の地域に例がないと聞きました。今後も同様の活動が末広く実施され、全国に広がるきっかけとなれぱと思い推薦させていただきます。

■授業の実施計画書

青島東小学校　関係者各位

平成23年11月7日

＜命の大切さを伝える授業・実施計画書＞

藤枝江﨑新聞店
田中・石間
054-641-0537
fax 644-5520

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は、弊社の地域活動にご支援いただき誠にありがとうございます。
この度は、保健委員会に声をかけていただき誠にありがとうございます。
貴校の活動の一助になればと、下記の通りご提案させていただきますので、ご検討の程、よろしくお願い致します。
尚、ご質問等あれば、田中・石間までお問合せください。

記

日　時　平成23年11月30日（水）13:55〜14:55＋15分間保護者指導あり

場　所　青島東小学校 体育館

参加者　5年生 121名　4クラス＋保護者10名程度

確　認　※スクリーン・マイク(2本＋ピンマイク)を貸していただきたい。
※実技はクラスごと担任の先生も入ってもらい行います。

内　容
1. 講演会（20分程度）
テーマ　災害時における正確な情報の大切さ
講　師　静岡新聞社販売局専任部長　鈴木正美
（スライド紹介あり）

2. AED講習会及び実演（30分程度）
講　師　藤枝市消防本部(4名)
確　認　※ノートPC・プロジェクター（江﨑用意）
※ダミー人形、AED8セット（消防本部用意）

タイムスケジュール　担当者

13:55	はじめの言葉	
13:56	テーマの説明	
13:58	講師の紹介	（田中　）
14:00	講演	（静岡新聞社、鈴木）
14:20	消防隊紹介	（田中　）
14:21	実演	（消防隊員　）
	クラス毎に実技	
14:50	実技終了	（田中　）
14:52	感想・お礼の言葉	
14:54	終わりの言葉	

※先生役を4名ご指名いただければ、8体のダミーで余裕を持って取り組めます。
※前後に学校長や養護教諭のお話しを入れてくだきっても結構です。

藤枝 江﨑新聞店

■2011年度「命の大切さを伝える教育」参加人数

	日	対象	時間	人数
青島小	9月2日（金）	5年	13:20〜14:05	190
		6年	14:15〜15:00	182
青島北小	9月9日（金）	6年	13:50〜14:50	79
西益津小	9月12日（月）	5・6年	10:35〜12:15	197
稲葉小	9月29日（木）	5・6年	13:55〜14:55	76
青島北中	10月24日（月）	1年	13:25〜14:25	120
	11月2日（水）	2年	13:25〜14:25	120
	11月9日（水）	3年	13:25〜14:25	120
葉梨小	10月25日（火）	6年	13:25〜14:30	108
葉梨西北小	11月4日（金）	4・5・6年	13:45〜15:00	46
瀬戸谷中	11月16日（水）	3年	11:00〜12:00	20
広幡小	11月17日（木）	5・6年	13:30〜14:35	140
高洲小	11月25日（金）	5年	13:55〜14:55	130
藤岡小	11月29日（火）	5・6年・PTA	13:50〜15:10	75
青島東小	11月30日（水）	5年生・PTA	13:55〜15:10	121
瀬戸谷小	12月5日（月）	5・6年	13:45〜14:55	28
瀬戸谷中		1〜2年		8
藤枝小	12月8日（木）	6年	14:00〜15:00	87
朝比奈第一小	1月24日（火）	5・6年	13:30〜14:30	40
藤枝中	2月2日（木）	3年	9:30〜11:00	194
〈合計〉				2,081

■藤枝市長からの感謝状

感謝状

株式会社
藤枝江﨑新聞店様

貴社は藤枝市立小学校十五校全校に対し児童が安全で安心な学校生活を維持するため必要な自動体外式除細動器を寄贈され学校教育の一層の充実に寄与された功績は誠に顕著であります
このたび寄贈にあたり深く感謝の意を表します

平成二十年三月十九日

藤枝市長　松野輝洋

■子どもたちの感想（藤枝市立葉梨西北小学校）

学校保健委員会で学んだことや感じたことを書きましょう。
4年
私は、学校保健委員会で始めてAEDを使いました。始めは、これは、どうやって使うのかなぁと思いました。私は、AEDの機械がしゃべったのでおどろきました。AEDのボタンの使い方、心ぞうマッサージの回数など色々な事を教えてもらって、よかったです。人がたおれていたら、すばやくAEDを使えるようになりたいです。

学校保健委員会で学んだことや感じたことを書きましょう。
5年
命を守る事はとても大切な事でAEDや心ぞうマッサージなどの少しな事で人の命を守る事が出来るのはすごくうれしいです。人の命を守る事は大切だなと思います。

学校保健委員会で学んだことや感じたことを書きましょう。
5年
今日、このような体験、東北大震災の話を聞き命は本当に大切なんだなぁと実感しました。もちろん人がたおれるのはない方がいいけど、知っていればこれからも使えるので、知って良かったなぁと思いました。

学校保健委員会で学んだことや感じたことを書きましょう。
6年
「AED」は、体験したことがなく、難しいものだと思っていました。でも、今日体験してみて、すごく簡単な操作でわかりやすかったです。ただ、いざとなった時に、パニックになったら、できなくなってしまうかもと感じました。震災の話の、死者の人数を聞き、おどろきました。

■保護者からの感想（藤枝市立葉梨西北小学校）

東日本大震災のような大地震が起きた時、少しでも子供達が落ち着いて行動できるよう、今回の災害時に対するお話が心に残ってくれると嬉しいです。
AEDを実際に使う場面はあってほしくないですが、もしもの時、一人でも多くの人が知識を持っていれば尊い命が助かると思うので、とてもいい講習でした。

3月11日の地震は今でも覚えていて、人ごとではないという思いがありますが、どう行動していかなければならないのか、何を信用していくのか、今改めて思い返したところです。子供達は新聞を読む機会がなく、日曜日の[illegible]と静岡を見せてみました。興味をもってくれると良いなあと思います。
AEDの講習は以前体験したこともありましたが、心当たりなければ忘れてしまいそうだったので参加させていただきました。消防職員の方に細かな質問をしても丁寧に答えていただき、金属や水たまり（雨）など注意すべき点をいろいろと教えてもらえました。運動場や体育館にないことが心配になりましたが、窓ガラスを割ってでもAEDを取って使用してほしいという先生の言葉を聞いて、その通りだと思いました。ありがとうございました。

まだ地震の被害は続いている事を忘れてました。今でも新聞に下報の記事が載っていることに気がきました。人と人との結びつきで助け合いで命が助かった例は多々あると聞きました。
災害に向けての準備、心がまえを持ち、生活していくことの大切さを学びました。
AEDの使い方、とても良かったです

■関連記事

AEDの使用法アドバイス
藤枝 プリティ長嶋さん講演

AEDの使用法をアドバイスするプリティ長嶋さん＝藤枝市茶町の生涯学習センター

藤枝市茶町の生涯学習センターで十四日、タレントで、千葉県市川市議のプリティ長嶋さんの講演会が開かれた。テーマは「命の大切さとAED（自動体外式除細動器）の普及」。長嶋さんはAEDが広がることで、多くの人の命が助かることを強調した。
長嶋さんは四年前、息子が所属する少年野球チームの試合中、相手チームの選手が心臓発作で死亡した事故を目の当たりにした。「AEDがあれば救えたかも」との思いを強くし、学校におけるAEDの普及を掲げ、昨年の市議選で初当選した。
読売巨人軍の長嶋茂雄終身名誉監督のものまねで知られる長嶋さん。背番号3のユニホームに身を包み、「AEDは魔法の機械。ぜひ、みなさんも使い方を知って」と来場者に使用法をアドバイスした。
藤枝江崎新聞店の創業七十周年記念として行われた。

静岡新聞　2008年12月16日付

AED講習 真剣に
藤枝・藤岡小 出前講座 命の大切さ学ぶ

斉藤選手（左奥）と一緒にAEDの取り扱いを学ぶ子供たち＝藤枝市藤岡の藤岡小

静岡新聞社と藤枝江崎新聞店の出前講座「命の大切さを伝える教育」が29日、藤枝市藤岡の藤岡小で開かれ、5、6年生約70人が非常時の情報の重要性について理解を深めた。
本社ふれあい読者室の担当者が東日本大震災の発生後の新聞記事などを示しながら命の重さや思いやりの尊さついて話した。あふれる情報を正しい目で選ぶ必要性を指摘する10代の読者の投書も紹介。「日ごろから確かな情報をつかむ訓練を心掛けて」と呼び掛けた。
講話後のAED（自動体外式除細動器）講習には、サッカー藤枝MYFCの斉藤俊秀選手兼監督も参加。子供たちと一緒に救急救命士の指導を受け、真剣な表情で取り扱い方法を確認した。

静岡新聞　2011年11月30日付

AEDの操作法学ぶ
藤枝・岡部小

AEDの操作方法を学ぶ子供たち＝藤枝市岡部町内谷の岡部小

藤枝市立岡部小は22日、自動体外式除細動器（AED）の講習会を同市岡部町内谷の同校体育館で行った。
学校など公共施設で配備が進むAEDの役割や命の尊さへの理解を深めるための初めての企画。5、6年生と保護者ら約200人が参加した。
子供たちは小グループに分かれ、実際にAEDを使って市消防本部の職員から操作方法を学んだ。静岡新聞社の社員が災害時の情報の大切さをテーマに講義し、「日ごろから地域のことを積極的に知ることが、緊急時の助け合いにつながる」と話した。

静岡新聞　2010年11月26日付

藤枝の大洲中で AED救命講習
命学ぶ全校集会

藤枝市弥左衛門の市立大洲中学校（中村芳美校長、生徒286人）で23日、保健・道徳教育の一環として、命について学ぶ全校集会があった。
集会は、藤枝江崎新聞店の全面協力で開かれた。照山哲史・毎日新聞静岡支局長の講演と、市消防本部の職員によるAED（自動体外式除細動器）の救命講習が行われた。
照山支局長は講演で「取材で感じた『命の大切さ』について」と題し、03年に起きた練炭を使った集団自殺未遂事件の生存者に取材した経験を語り、「とにかく挑戦してほしい」との生存者のメッセージを紹介した。
救命講習では、人形を使って心肺蘇生法を訓練。救急救命の手順を実演、生徒たちも自ら訓練した。【大西曇】

消防本部職員からAED使用時の注意点などの説明を受ける生徒たち＝藤枝市弥左衛門の市立大洲中学校で

毎日新聞　2009年7月24日付

多趣閑言
生きることの意味

「命の大切さについて話してほしい」。藤枝市の藤枝江崎新聞店の依頼を受けて、23日に市立大洲中学校で中学生を相手に講演した。重いテーマなので何を話すか悩んだが、取材に基づく体験が具体的でいいと考え、6年前の集団自殺未遂事件を取り上げた。富士山の樹海近くで20代の男女4人が車内で練炭をたき自殺を図ったが、1人が苦しさからドアをけり開けたため、全員救助された事件だ。
見ず知らずの関係だった4人はインターネットを通じて集まっていた。身元を割り出し、2カ月にわたり手紙や電話、メールで接触を試みた。その結果、ドアを開けた男性に会え、別の男性がメールに応じてくれたため、事件を再現して検証。03年8月末から「見えない網・追跡ネット自殺」のタイトルで社会面に6回連載した。講演では、事件の概要を話し、15歳の時に自殺未遂をした精神科研修医の25歳男性からの連載に寄せられた反響と、ドアを開けた男性のメッセージを紹介した。
反響は「10年前、今の自分を想像できなかった。今、苦しんでいる人たちに、生きろとも希望を持てとも強要しない。ただ、自分で想像できるのは小さな世界でしかなく、与えられる現実は、想像をはるかに超えたものだ」との内容だ。私自身、若いころに想像していた自分と10年、20年後の自分は大分異なるなど実感していたこともあり、この言葉を中学生に贈った。
ドアを開けた男性は今、金融関係の会社に勤務し、元気に暮らす。今回連絡を取ると、30歳になる男性は「とにかく挑戦してほしい」とのメッセージを私に託した。消極的な生き方をして自殺を図った自身の反省から出た言葉だ。二つの言葉は、若者に生きることの意味を教えてくれていると思い、講演のまとめで紹介した。挑戦して生きていく先に自分の想像を超えた人生がある。そう思う。【静岡支局長・照山哲史】

毎日新聞　2009年7月28日付

■授業風景

石神井公園ウォーキングごみ拾い

読売センター石神井、読売センター石神井北口、読売センター石神井公園

地元公園のごみ拾いを通じて 公園の美化・環境への 意識向上に寄与

◉実施期間

2004年7月～

◉実施地域

都立石神井公園（しゃくじいこうえん）（東京都練馬区）

◉活動概要

練馬区の都立石神井公園に隣接する読売新聞販売所（YC）3店は、2004年７月から毎月１回日曜・祝日に、地域の方々と一緒に石神井公園を散歩しながらゴミ拾いを実施している。

公園の美化・環境の向上意識を高め、参加した家族の絆づくりの機会とすることを目的に始めた活動は午後3時から90分程度で、毎回45リットルゴミ袋約10袋分を収拾している。

ゴミ拾いのほか、参加者お楽しみ企画として、10個のお宝を公園内に隠し、発見者にそれを贈呈するなど、遊び心もある活動は参加者から喜ばれ、「公園がきれいになって評判です」との声が寄せられている。

＊

読売センター石神井、読売センター石神井北口、読売センター石神井公園＝東京都練馬区内にある3つの読売新聞販売所。

■ウォーキングごみ拾いの様子

■新聞に折り込まれる告知チラシ

第72回

石神井公園 ウォーキング ごみ拾い のお知らせ

読売センター石神井公園・石神井・石神井北口の３店のスタッフが毎月１回集まって始めた石神井公園の掃除も今回で81回目になりました。
やってみると意外に楽しくて、それならみんなでやってみようという事になり、「宝さがしゲーム」も取り入れてみなさんと一緒にやり始めて今回で72回目です。
みなさんのご参加お待ちしております！

ごみ拾いのキャラクターができました！ 名前は「ゴミー」で～す！ よろしくね♪

5月13日（日） 午後３：00～午後４：30 「豊島屋」前集合！

この地図のどこかにお宝が隠されています♪

ウォーキングごみ拾いMAP

ごみひろいのポイント
※ 柵やロープの中には絶対入らない！公園を大切に！
※ 人が集まる所に多くゴミがある（ベンチの周りなど）
※ タバコの吸い殻やキャンディの包み紙が多い
※ 無理をせず、体調とケガに注意する
※ 自分でゴミを捨てない
※ 楽しんでやる

ごみ拾いをしてお宝引換券入りカプセルを探そう！

ドリンク引換所「豊島屋」 受付

環境保護と安全のため、柵やロープの中には絶対入らないでください。素敵な公園を守りましょう！
終了時間までに受付にお戻り下さい。ゴミと引換に「お疲れドリンク券」を差し上げます。

《お読み下さい》
●ごみ拾い中のケガなどに関しては、参加者の皆様 の自己責任とさせていただいておりましたが、参加人数も増えてきたことと、趣旨に賛同して下さる「行政書士 福田茂事務所様」のご厚意により、傷害保険を無料で提供していただけるようになった為、参加の際は受付にて「お名前・性別・年齢」のみご記入下さい。ご記入頂いた個人情報は補償の際のみに使用しその他の用途に一切使用しません。また、情報の管理を徹底し、一切外部には漏らしません。ご記入は強制ではありませんが、ご記入の無い場 合のケガ等の責任は負いかねます。
★公園内の柵やロープの中には絶対入らないで下さい！植物の保護や安全の為、ご協力願います。（お宝も柵やロープの中にはありません）
●お宝はお一人様１つまでとさせていただきます。（もし２つ以上見つけてしまった場合は見なかったことにするか、他の方にそっと教えてあげて下さい）
●お子様のみでの参加は危険ですのでできません。必ず保護者の方と行動を共にしてください。
●参加のお礼にごみ袋と引換でドリンク券をお配りしますので、終了時間までに必ず受付場所までお戻り下さい。（スタッフ撤収後のお宝交換・ドリンク券の配布・ごみの回収はできません）
●雨天の場合は中止になります。

ウォーキングごみ拾いのお問い合せは
読売センター石神井公園 03-3996-2577
読売センター石神井 03-3904-2828
読売センター石神井北口 03-3996-6300

軍手・

■ポスター

お米作り（田植え、草刈り、稲刈り）体験と ミニコミ紙による地域情報の発信

朝日新聞江東ブロック会

日本人の主食である「米」づくりを体験 食育につながる取り組みを ミニコミ紙を通して地域住民に発信

◉実施期間

2008年5月〜

◉実施地域

東京都江東区、墨田区の一部地域

◉活動概要

朝日新聞江東ブロック会では、2008年5月から江東区、墨田区の一部地域で、読者を対象に田植え体験ツアーを企画、実施している。

地域の読者の子どもたちに日頃から口にする「お米」の育っていく様子や田植えから稲刈りを経て白米になるまでの苦労を理解してもらうとともに、残さず食べる大切さを学んでほしいという思いから始めた。この「食育」につながる活動の内容は、毎月第3日曜日に発行しているミニコミ紙「ASACOM」で開催結果を掲載して主に江東区内に発信している。

＊

朝日新聞江東ブロック会＝東京都江東区にある朝日新聞系統の11販売所で組織。大山智弘（おおやま・ともひろ）代表。

■田植え体験の募集チラシ

ASACOM
ASAコミュニケーションズ

お米作りだよ！全員集合〜♪

千葉県鴨川市・大山千枚田（日本棚田100選）　5月6日(日)

第5回 お米作り 田植え体験

▲昨年の田植えの様子。晴天の中、小さいお子様〜大人まで大勢の方が参加されました。

「田植え体験」募集要項
日　時　5月6日（日）雨天決行
定　員　50名
参加費　大人　4,000円
　　　　小・中学生　2,000円
　　　　未就学児童　無料
※収穫したお米は参加した方で分配します
応募締切　4月21日必着分
応募先
〒135-0033
江東区深川1－9－14
ASA深川「お米作り田植え体験係」
FAX　3641－0150
E-mail　asa_koutou12@yahoo.co.jp

行程表（予定）

9：30	現地集合・大山千枚田（田んぼ） ※時間厳守
10：00	田植え説明会
10：30	田植え開始
12：00	昼食(まぜご飯、豚汁、漬物等500円で準備) 休憩
13：00	田植え再開 （作業が残っている場合）
14：30	田植え終了・帰宅準備
15：00	現地解散（15:00予定）

〜〜申込方法〜〜
①ご住所②お名前・年齢（参加者全員）③代表者の電話番号・メールアドレス④昼食希望人数を必ずお書きのうえ、ハガキ・FAX・Eメールにて上記宛にご応募下さい。定員は50名で締め切らせていただきますので、お早めにお申し込み下さい。
当選者には担当ASAより当日のご案内をさせていただきます。参加費はその際にお支払下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

ASACOMでは、お米作り・田植え体験及び稲刈り体験を通して、1粒のお米がどのように育ち、また、作る大変さを知り、食べ物の大切さを学ぶ『食育』にも力を注いでいます。

■田植え体験

■田植え・稲刈り体験の模様を掲載したミニコミ誌「ASACOM」

スポーツ・芸能情報ならお得な家庭配達で日刊スポーツ
定期購読のお申込は 0120−81−4356

ASACOM
ASAコミュニケーションズ

第95号　平成24年5月20日（毎月第3日曜日）発行

オープン前のスカイツリーで記念写真
ASACOM「ぶらり散歩」
両国から亀戸まで約8キロを歩く

力強く育って、たくさん実ってほしい
第5回お米作り田植え体験
大山千枚田（千葉・鴨川）で

東京海洋大学 第52回海王祭 6月2日、3日

◎次号の発行は6月17日（日）になります

理想を追求したらこんなふとんができました。
羽毛より真綿より気持ちいい！
新しい絹100%のふとん
繭魂 株式会社
http://www.mayutama.co.jp/

「ASACOM」2011年9月18日付（第87号）

このASACOMは、毎月第3日曜日に朝日新聞ご購読者に配布されます。
TOKYO ASA-NET

ASACOM
ASAコミュニケーションズ

発行所 ASA江東ブロック
発行人 大山智弘
発行部数 38000部
〒135-0033 江東区深川1-9-14
TEL.03-3641-4332(代)
FAX.03-3641-0150

第87号　平成23年9月18日（毎月第3日曜日）発行

第8回「朝日・新聞スクラップコンクール」
全新研優良賞に帖佐茉里子さん（数矢小6年）

黄金色に輝く棚田で
ASACOM稲刈り体験開催
大山千枚田（千葉・鴨川市）

家庭教師のひとり言

◎次号の発行は10月16日（日）になります

理想を追求したらこんなふとんができました。
羽毛より真綿より気持ちいい！
新しい絹100%のふとん
繭魂 株式会社
http://www.mayutama.co.jp/

「ASACOM」2012年5月20日付（第95号）